ウェルカム・サンデーメッセージ（2019 年 11 月 17 日）

メッセージ：中村信哉

平和をつくる者は幸いです

マタイの福音書５章９節

はじめに

私がウェルカム・サンデーでメッセージをする時には、イエス様が語られた「幸せ」についてお話することにしています。

イエス様は、弟子たちや群衆に向かって、「平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです」と言われました。平和をつくることが人を幸せにする、そして平和をつくる人は、神の子どもと呼ばれると言われます。

1. 私たちと平和

平和とは何でしょうか？広辞苑には、①やすらかにやわらぐこと、おだやかで変りのないこと、 ②戦争がなくて世が安穏であること、とありました。一言で言えば、平和とは、争いのない状態と言えるのではないかと思います。特に、戦争を経験した方々は、平和を求める強い思いを持っておられるのではないかと思います。

しかし争いは決して国と国の間にだけ起こるものではなく、あらゆる人間関係の間に起きてくるものです。夫婦の間、親子の間、兄弟の間、友人の間、その他、職場や学校などの様々な人間関係の中で争いは起きてくるものです。私たちはすべての人間関係の中で、平和でありたいと願いますし、すべての人間関係の中で平和であることこそが幸せであると多くの人が感じていると思います。しかし現実には、そのような人間関係の中で争いが起こり、平和が失われ、私たちの幸せが脅かされることがしばしばです。

聖書の中の「ヤコブの手紙」には、こういう言葉があります。**「あなたがたの間の戦いや争いは、どこから出て来るのでしょうか。ここから、すなわち、あなたがたのからだの中で戦う欲望から出て来るのではありませんか。あなたがたは、欲しても自分のものにならないと、人殺しをします。熱望しても手に入れることができないと、争ったり戦ったりします。自分のものにならないのは、あなたがたが求めないからです」（ヤコブ 4:1-2）。**

聖書は、戦争やあらゆる人間関係の争いの原因は、私たち人間の心の中にある欲望が原因であると言います。自分が欲しいと願うものを、神様に祈り願って、神様に与えられるのを待ち望むのではなく、自分の力で無理やり手に入れようとするから戦争やあらゆる人間関係の争いが起こるのだと言うのです。逆に言えば、人と人との間に、神様への祈りというものがあれば、争いが避けられ、平和が保たれると言うのです。

聖書の中の「創世記」には、神様が人類最初の人であるアダムとエバを造られたということが書かれています。アダムとエバの間には最初、争いもなく、平和がありました。しかし

アダムとエバが神様に命令に背き、禁断の木の実を食べた時から、アダムとエバの間の平和が失われ、責任を擦り付け合うことが起こったのです。そしてアダムとエバの間に生まれるカインとアベルも、兄弟で争い、兄のカインは弟のアベルを殺してしまうのです。

聖書が教えていることは、私たち人間は、神様との関係、神様との交わりが失われた時から、あらゆる人間関係の争いが起こり、平和が失われたということです。つまり神様との平和が失われた時から、人との平和も失われるようになったということです。

そうだとするなら、戦争もあらゆる人間関係の争いの根本的な原因は、私たち人間が神様との平和を失ったことにあると言えます。そしてもし私たちが平和を望むならば、まず私たち一人ひとりが、神様との平和を回復しなければならないと言えます。なぜなら、神様との平和の回復なしに、人との平和の回復は望めないからです。

2. 平和をつくる神

私たちすべての人間は、アダムとエバが神様の命令を背いた時から、罪の性質を持って生まれるようになりました。罪とは、神様の命令に背くことです。神様の命令は、モーセの十戒に要約して書かれていますが、その中心は、①神様を愛すること、②人を愛すること、です。神様が私たち人間に求めていることは、愛です。神様と人を愛することです。ある人は、「私は人を愛している」と言うでしょう。「家族を愛し、人に迷惑をかけることもしない、慈善活動もしている」と言うでしょう。しかしあなたは、神様を愛しているでしょうか？いくら人を愛していても、神様を愛していなければ、神様の御前には罪人なのです。神様を愛するとは、聖書の主なる神様以外を拝まないこと、日曜日に礼拝を守ることでもあります。

私たちは誰でも生まれながらに罪の性質を持って生まれ、神様の前に罪を重ねて生きています。それゆえ私たちは誰でも、神様に裁かれなければなりません。永遠の地獄の刑罰を受けなければなりません。それが私たちすべての人間が辿るべき運命でした。

しかし今日の聖書箇所に、「平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです」とあります。これは、平和をつくる人は、神様に似ているから、神様の子どもと呼ばれるという意味です。神様は、平和をつくる方です。神様は、平和になるのを待っている方ではありません。自ら積極的に、平和をつくりだす方です。

神様は、私たちとも平和をつくられる方です。神様と私たちとの関係は、罪のゆえに壊れています。しかし神様自らが、積極的に私たちとの関係を回復し、平和をつくろうとされたのです。神様は、私たちとの関係を回復するために、仲裁者を立てられました。それが神様のひとり子イエス様です。イエス様は、神様と私たちとの間に立ち、神様と私たちの関係を回復させようとされました。そのために十字架に架かられたのです。私たちに対する神様の怒りと裁きを、イエス様が代わりに受け、神様の怒りと裁きを宥められたのです。

神様は、イエス様によって私たちに和解の握手を求めておられます。私たちもイエス様を私たちの仲裁者と信じて、神様の御手を握り、神様の和解の握手に応えるなら、私たちは神様との壊れた関係を回復し、神様との平和を回復することができるのです。

使徒パウロはこう言いました。**「私たちは信仰によって義と認められたので、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています」(ローマ 5:1)**。神様との平和を回復するということは、すべての罪が赦され、もはや裁かれることなく永遠の地獄の刑罰から救われるということです。そして私たちも、この地上で、平和をつくる者とされるということです。あらゆる人間関係の中で、自ら平和をつくり出す者とされるということです。

2. 平和をつくる者とは？

しかし私たちは、自動的に平和をつくる者とされるわけではありません。平和をつくる者には、痛みや苦しみが伴うものです。神様も、私たちとの間に平和をつくるために、イエス様のいのちを犠牲にされました。またあらゆる忍耐をされました。平和は、あらゆる忍耐や犠牲を伴いながら、つくり出していくものです。

イエス様は、「心の貧しい者は幸いです」「悲しむ者は幸いです」「義のために迫害されている者は幸いです」と言われました。「貧しい者」「悲しむ者」「迫害されている者」は、この世の価値観では、どれも不幸に思えるものです。しかしイエス様は、天の御国においては価値観が逆転すると言われたのです。だからこそ、「貧しい者」「悲しむ者」「迫害されている者」でも幸せに生きることができるのだと言われたのです。

平和をつくる者も、この世の価値観では不幸に思えるものなのです。平和をつくる者とは、自ら積極的に平和をつくる人ということです。私たちが誰かと争ったとします。人間関係でトラブルが起こったとします。その時に、平和をつくる人は、自分から積極的に関係を回復する努力をするのです。相手が謝ってくるのを待っているのでもなく、自分の正しさを主張するのでもなく、自分が悪かった部分を素直に認めて、赦しを乞い、相手を赦し受け入れることです。たとえ自分が全く悪くなかったとしても、相手を赦し、自分から関係を回復する努力をするのです。

神様もそうでした。神様は全く悪い部分がないのに、神様が私たちとの回復を求め、近づき、犠牲を払い、忍耐して、和解の握手を差し出されたのです。平和をつくる者は、神様に似ているから、神様の子どもと呼ばれるのです。平和をつくる人は、神様のように、自分から壊れた関係の回復を求め、犠牲を払い、忍耐をして、和解の握手を差し出すのです。

それは、この世の価値観では損をしているように見えます。人が良すぎるように思えます。そんなことをしていたら、良いように人に利用されるだけのように思えます。そんなことをしていたら世の中生きていけないと思われます。しかし、それでもイエス様は、幸せだと言うのです。それは、神様に似ているからだ、神様と同じような歩みをしているからだ、きっと誰かが、あなたのうちに神様を見てくれるからだ、と言うのです。

おわりに

私たちは、この世界に平和をつくるために生かされています。平和は待っていてもやってきません。平和は、私たち一人ひとりがつくり出すものです。世界の中には、国と国の争い

などがあり、あらゆるテロや犯罪があります。その中で、私たちに何ができるかを考えなければなりません。

① 第一に、私たち一人ひとりが、神様との平和を回復しなければなりません。神様との平和を回復しなければ、この世界にも、あらゆる人間関係にも平和をつくることはできません。私たちはまず、自分の罪を悔い改め、仲裁者であるイエス様を信じて、神様から差し出されている和解の握手を受け入れなければなりません。それでこそ初めて、私たちは平和をつくることができるのです。

② 第二に、私たちは人々に福音を宣べ伝え、人々と神様との間に平和をつくり出さなければなりません。神様はイエス様を通して和解の握手を人々に求めています。そして人々を平和の使者として、世界に遣わそうとされています。

③ 第三に、私たち一人ひとりが、身近な人との間に平和をつくらなければなりません。夫婦の間、親子の間、兄弟の間、友人の間、その他の職場や学校などの人間関係の中で壊れている関係はないですか？あなたがまだ平和を回復していない、争っている、赦せていない関係はないですか？その関係に、自分から平和をつくり出すことはできませんか？損をするように思えるかもしれません。しかしイエス様は、それでも平和をつくり出す人は幸せだと言われます。そして平和をつくり出すそのあなたの姿にこそ、神様が現れると言われるのです。

④ 第四に、私たちは、直接自分とは関係がないかもしれませんが、誰かと誰かが争っている間の仲裁者となり、平和をつくり出さなければなりません。私たちは傍観者ではなく、仲裁者にならなければなりません。そして双方の意見を聞き、誤解を解き、関係の回復へと導かなければなりません。イエス様は、神様と私たちとの仲裁者となり、関係を回復させ、平和へと導いてくださったのですから。

神様は、私たち一人ひとりを通して、この世界に平和をつくろうとしておられます。あらゆる関係の平和のために、私たち一人ひとりを用いてくださいます。平和をつくることは、簡単なことではありません。時には損をすることも、誤解されることも、非難されることも、危険にさらされることもあるかもしれません。しかし神様は、平和をつくる私たちと共にいてくださいます。平和をつくる私たちの姿を通して、御自身を現わしてくださるのです。誰かがきっと、私たちの姿のうちに神様を見出してくれるのです。

天におられる私たちの父となってくださった主なる神様。

あなたは、私たちとの壊れた関係を回復するために、御子イエス様を仲裁者として立て、十字架によって罪を贖い、私たちに和解の手を差し伸べてくださいました。私たち一人ひとりが、あなたの和解を受け入れ、あなたの差し出された御手を握り返し、あなたとの平和を回復することができますように。

そして、私たち一人ひとりがこの世界に平和をつくることができますように。人々に和解の福音を宣べ伝えるとともに、私たちが身近な人々との平和をつくることができますよう

に。壊れた関係の中に、自ら歩み寄り関係の回復のために努力していくことができますように。たとえ自分とは関係がなくても、壊れたあらゆる関係の仲裁者となり、あらゆる関係に平和をもたらすことができますように。私たちは、平和をつくる中で、あらゆる苦しみや悲しみを経験するでしょう。しかし神様やイエス様の姿のうちに励ましと慰めを見出し、人々が私たちの内に神様の姿を見出すことができますように導いてください。

この祈りを、私たちの仲裁者イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。